

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：角・奈良井]

TEL：0853-22-6772 FAX：0853-24-3342

平成 29 年度 病害虫発生予察情報 技術資料第 4 号

平成 29 年 6 月 29 日
島根県病害虫防除所

アワヨトウの発生について

6月26日に、隠岐の島町のイネ科牧草が隣接する水田でアワヨトウ幼虫の加害が確認されました。イネ科牧草で多発生した幼虫が水田に侵入したと考えられます。また同日益田市で、また27日に大田市、28日に出雲市でもイネ科牧草地から移動している幼虫が確認されています。

今後、イネ科作物（稲、とうもろこし、イネ科牧草、はとむぎなど）ではアワヨトウの発生が懸念されますので、十分注意してください。



図1 アワヨトウ幼虫頭部の八の字形の斑紋（黒化型幼虫）

【発生生態】

1. 若齢幼虫の体色は淡黄緑色、成長するにつれて灰緑から黒緑色まで体色変異があるが体側に明瞭なタテスジが通り、頭部はミカン色で黒い八の字形の斑紋がある（図1）。老熟幼虫の体長は45mmぐらいになる。幼虫期間は約1か月。
老熟幼虫は加害株の株元や浅い土中で蛹化する。蛹期間は10日～14日。
2. 出穂期前後の水稻に発生した際は、葉鞘内側と茎の間に卵を産み、被害も最初は独立して現われ、幼虫の齢期も不ぞろいのことが多い。
3. 多発生した場合集団で水田に侵入することがある（図2）。主にイネ科牧草、とうもろこし等のイネ科作物に被害を及ぼすが、その他にも河川敷、道路の法面、果樹園の下草、雑草地などのイネ科雑草やゴルフ場の芝類でも発生する。

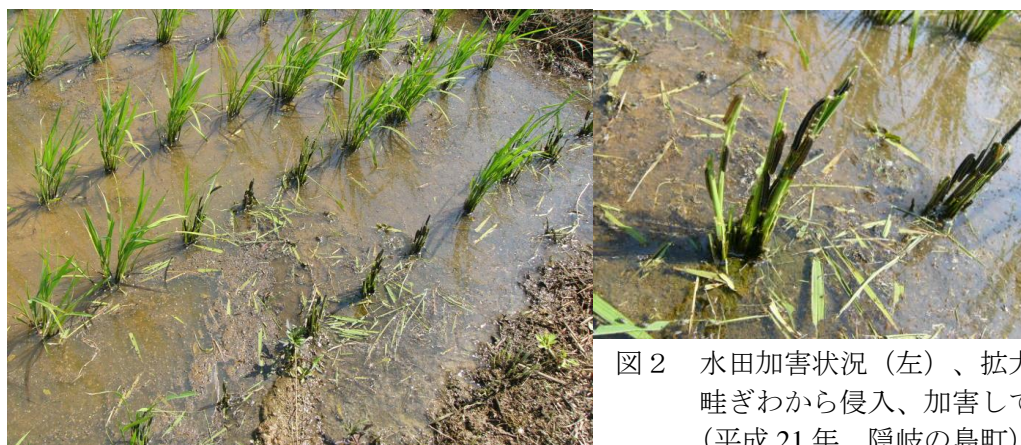


図2 水田加害状況（左）、拡大（右）
畦ぎわから侵入、加害している。
（平成 21 年 隠岐の島町）

【防除の留意点】

1. 若齢幼虫期には薬剤の効果が高い。中齢以降は日中に地際にいることが多くなり薬剤が届きにくく効果が劣る。
2. 幼虫のステージが不ぞろいときは、7日おき2回散布する。株元に十分かかるように散布する。
3. アワヨトウに登録がある農薬を表1に示す。なお、薬剤散布に当たっては農薬の使用基準を遵守するほか、必ず最新の登録内容を確認する。
4. 水田へのアワヨトウ幼虫の侵入は、深水管理にすることで水田内の移動を制限できる。

【表1】アワヨトウに登録されている農薬

作物名	農薬名	希釈倍率 (散布液量)	使用時期	本剤の使用回数
とうもろこし ※	トレボン乳剤	1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	4回以内
	アグロスリン乳剤	1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	3回以内
イネ科牧草	スミチオン乳剤	1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回以内

※飼料用とうもろこしは含まない。